

## 長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	68	—	事業名	児童館利用促進事業	担当部課	福祉部子育て支援課
------	----	---	-----	-----------	------	-----------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	9	安心して子育てができる環境をつくる	款	3	民生費
		施策の進め方	3	児童健全育成事業の充実	項	2	児童福祉費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	6	児童館費
		政策分類	4	地域一丸で、子育て支援を充実させる	大事業	4	児童館利用促進事業
	その他(関係法令、要綱等)		児童福祉法第40条				
事業開始の背景、経緯等		児童福祉法の施行により、児童館は地域における子どもの余暇活動の拠点として、不特定多数の地域の子どもたちに対して、健全な遊びを提供し、健全育成活動を行う場として、社会的に認知された。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 児童に健全な遊び場を与え、その健康を増進し、情操を豊かにするとともに、異年齢児、地域との交流の場とすることを目的とする。 (概要) 青少年児童センター、上郷児童館、下山児童館、長久手西児童館及び長久手南児童館を運営する。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 乳幼児及びその保護者、小学生を中心とした児童					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 児童の発達を増進し、地域住民と連携した活動を進め、活性化を図る。					
	事業を構成する事務事業	① 児童館活動事業	② 児童館まつり実施事業	③	④	⑤	⑥

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		1,121	914	1,044
決算					752	839	751	
人件費(B)	千円	決算		3,666	4,736	5,316		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		4,418	5,575	6,067		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 入館者数	人	目標	69,500	80,000	85,000	90,000	90,000
			実績	70,069	90,624	90,822	88,480	
	B 児童館まつり協力者の満足度	%	目標	—	—	—	80.0	85.0
実績			—	—	—	92.2		
C		目標						

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 児童館の入館者数 前年度実績及び過去の伸び率より設定した

B 各会場において、子どもスタッフやボランティアへのアンケートを実施することにより課題を見つけ、改善を図る。初年度は、8割の満足度を目指す。

C

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 尾張旭市、日進市(複合施設)、東郷町にて、同様の取組を実施
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 平成27年度から市が洞児童館が開館し、全小学校区にて児童館を配置できた(6小学校区に6児童館)。また、児童館まつりにおいては、平成28年度から市が洞児童館も開催会場とし、市内4会場での開催となった。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後も、子どもの居場所に対するニーズは高まると考えられるため、今後も地域に身近な事業を実施することで、児童館を地域における子育て支援の拠点とするとともに、子どもの健全育成の場とする。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 「地域とのつながりを深める」「子育て支援の充実を図る」「職員の資質向上を目指す」「大学との連携を強化する」を掲げて児童館運営を展開していく。また児童館まつりについては、会場ごとに課題を見つけることで、改善を図っていく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 旧長湫北保育園の跡地に、平成31年中を目標に複合機能を持った児童館を整備する。 農村環境改善センターの多目的広場に、平成32年度を目標に児童館を整備する。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		児童館利用促進事業										
番号	①	事務事業名	児童館活動事業		款	3	項	2	目	6	大事業	4	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和49年		終了（予定）年度	—								

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	乳幼児及びその保護者、児童を対象に、児童厚生員が料理教室、人形劇公演、お楽しみ遠足等を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	児童館が地域の子育ての拠点となり、発達の増進を図るとともに、豊かな人間性の発達を促す。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		471	237	235	235
		決算		226	206	179	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 人形劇団等公演委託						127	千円
② 賄材料費						33	千円
③ 消耗品費						11	千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
入館者数	人	目標	69,500	80,000	85,000	90,000	92,000
		実績	70,069	90,624	90,822	88,480	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
子どもたちに人気のある陶芸教室、料理教室、人形劇観賞会等の全体行事及び工作、ゲーム等の各館行事を企画、運営した。6館で様々な行事を開催し、多くの子どもたちに健全な遊びの場を提供した。							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

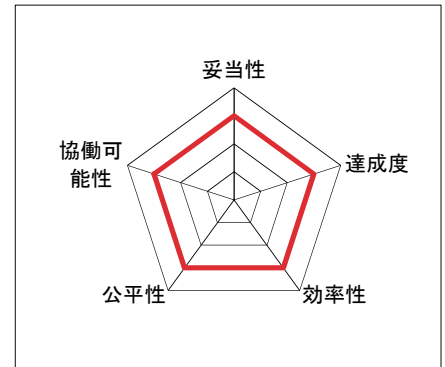
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
今度も、子どもの居場所に対するニーズは高まると考えられる

## 5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
地域交流事業「児童館おたすけたい」を広めることにより、地域とのつながりを深める児童館運営を目指す。 職員の勤務形態を変更することにより、乳幼児向け及び子育て中の保護者向けイベントの充実を図る。
(何をどのような状態に改善したのか)
平日午前中の乳幼児向けおよび子育て中の保護者向けイベントの充実を図ることができた。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
新たな取組として、職員の勤務形態を変更することにより子育て支援の充実を図ることができたことと、児童館からのおたよりを効果的に回覧することにより、広報（周知、啓発）の充実を図ることができた。

### 【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
地域に根付いた児童館運営を目指す。

## 7. 今後の方向性

**拡充**

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
・児童館おたすけたい」を広めるとともに地域の人とつながった児童館運営を目指す。 ・乳幼児、子育て中の保護者向けイベントを実施し、子育て支援の充実を図る。 ・各種研修に参加し、児童厚生員としてのスキルアップに繋げる。 ・他児童館を視察することにより、技術やアイデアを学び、児童館行事の充実を目指す。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		児童館利用促進事業									
番号	②	事務事業名	児童館まつり実施事業	款	3	項	2	目	6	大	4	中	2
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成3年		終了（予定）年度		—					

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	乳幼児及びその保護者、小学生を中心とした児童に対し、こどもスタッフ会議を実施し、児童館まつりを実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	子どものボランティアの育成・援助を図る。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		650	677	809	747
		決算		526	633	572	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 児童館まつりイベント委託						280	千円
② 消耗品費						203	千円
③ 食糧費						89	千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
児童館まつり協力者の満足度	%	目標				80.0	85.0
		実績				92.2	
		目標					
		実績					

<備考：活動の概要（当該事業年度）>

5月20日（土）に、こどもスタッフを始めとしたボランティアスタッフとともに市内4会場で児童館まつりを開催し、1,888人の参加者があった。まつりによって、子どもたちに健全な遊びを与え、交流を深め、児童館の存在や活動内容に関心を持たせた。

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

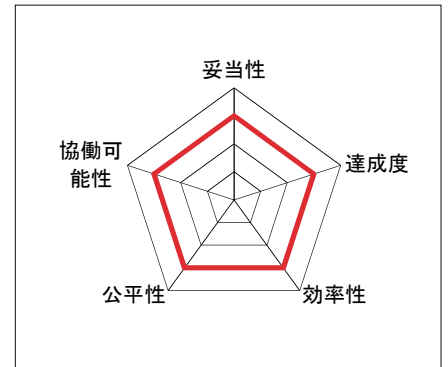
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
今後も、子どもスタッフを始め、地域住民の企画運営への参加促進に努める。

## 5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
児童館まつりの各会場の参加人数や状況、スタッフやボランティアのアンケート実施により、事前準備や当日のスタッフの配置等、それぞれの課題を見つけることで、改善を図っていききたい。
(何をどのような状態に改善したのか)
こどもスタッフと児童館職員がアイデアを出し合うことにより児童館まつりを実施し、参加人数も前年度より増加した。また、アンケートを実施することにより、次年度に向けた改善案をまとめることができた。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)  
子どもスタッフと児童館職員がアイデアを出し合って内容を計画し、子どもスタッフ主体の児童館まつりを実施することができた。

### 【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)  
今後も児童館まつりを通じて地域の方々、学生のボランティアとの連携を図りながら地域に根ざしたまつりの運営を目指したい。

## 7. 今後の方向性

**拡充**

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)  
児童館まつりの各会場の参加人数や状況、スタッフやボランティアへのアンケート実施により、事業の改善を図っていききたい。